

【平成28年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

生活科における平成27年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・学年や学級、グループ活動や地域の方と触れ合う活動など、身近な人々と交流する場面で、児童は相手のことを考え自分なりの工夫をして活動することができた。また、学校探検や校外学習を1・2年生合同で行い、交流を通してお互いの学びを深めることができた。しかし、相手意識をもって行動することのよさに気づき、それを日常の学校生活の中に役立てるまでには至っていない。
- ・自分の思いや考えを表現しようとしているが、思考が深まらずねらいから外れた表現にとどまる児童、同じ内容の発言を繰り返してしまう児童や、思いや気づきを言葉で表現するのに支援を要する児童がいる。低学年の発達特性を考慮した上で、①多様な表現方法を活用しながら言語表現力を育成する指導 ②科学的な見方・考え方の基礎を養う指導を一層充実させる必要がある。

生活科における観点別の分析

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物の成長のような自然現象に関心をもち、意欲と愛着をもって活動しようとしている。</li> <li>・相手に喜んでもらえるよう計画を立てたり、友達と一緒に楽しめる遊びを考えたりしようとしている。</li> <li>・人と進んでかかわろうとしているが、かかわり方が分からず行動に移せない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達特性上、活動を通して考えたことや感じたことを表現するのが困難だったり、手段が限定的になったりする児童が多い。</li> <li>・活動や体験について考える際、活動そのものの楽しさを表現することはできるが、科学的な見方・考え方の基礎となる深まりがみられないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や校外の人とのかかわりを繰り返す活動を通して、身近な人々の思いや願いを想像し、自分にできることを考えることができた。</li> <li>・学校・地域の自然や人とのかかわり、その場所の良いところに気付くことができた。しかし、それを日常生活につなげる具体的な行動ができない児童もいる。</li> </ul>

授業改善のポイント

- 1 具体的な活動や体験を通して身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもちさせる。  
→地域の人々と交流する活動や地域に出かける活動を2年間にわたり継続的に取り入れる。また、人と触れ合うことや地域社会のよさ、自然の不思議さや面白さなどを実感できるような体験的活動を取り入れ、日常的に人や社会、自然に目を向けられるようにする。
- 2 表現活動を充実させ、その言語化を図る。  
→小学校低学年の発達特性をふまえ、絵、動作、劇化などにより、多様な表現方法を十分に活用した指導・支援を行う。さらにそれを適切な言語表現につなげるために、他教科と連携した指導を充実させる。
- 3 科学的な見方・考え方の基礎を養う。  
→学習対象にかかわるときの視点を明確にした上で思いや願いを十分にふくらませ、疑問や興味のある課題の解決に取り組める場(活動場所・人との交流・材料や道具・時間等)を確保する。

生活科の授業改善策

- 身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもちさせるために
  - ・近隣の施設や幼稚園・保育園など地域とのより継続性の高い交流を見通した指導計画を立てる。同学年の個別支援学級や他の学年・学級との連携を一層充実させる。
  - ・活動をふり返り共有化することで、児童が人と思いを伝え合う喜びや地域社会の仕組み、自然の不思議さや面白さなどを実感できるようにする。
  - ・繰り返しかかわることができるような学習対象・活動場所を選定し、また、児童の活動時間を十分に確保する。
- 表現活動を充実させ、その言語化を図るために
  - ・児童が思いや願いをもちたり、様々なことを発見したりすることで、表現する意欲をもてるよう、体験的な学習活動の充実を図る。
  - ・活動の過程で、様々な方法で表現する場を設定し、気付いたことや感じたことを交流できるようにする。
  - ・表現する活動では気付いたことを基に考え、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法を使って表現できるようにする。また、表現活動の際に支援を要する児童には、教師が言語化して伝えるなどする。
  - ・児童の表現を掲示物に残したり、言語化して板書したりして、視覚的に捉えられるようにする。
  - ・生活科の学習経験を、他教科の学習でも学習材として活用し、言語による表現が広がるようにする。
- 科学的な見方・考え方の基礎を養うために
  - ・発達特性をふまえ、諸感覚から得られる情報を大切に。年間を通して校庭や同じ公園などにある身近な動物や植物に触れて、自然の変化を感じたり、遊びや遊具に使う物づくりを通して四季の変化など自然の不思議さや面白さに気付いたりする。
  - ・友達と交流して比べる・前回と今回の生き物の成長の様子を比べるなどの考えを促す。